

# 3 戦中の千葉市

## 戦時下の市民生活

昭和6年(1931年)9月満州事変が勃発し、さらに、昭和12年(1937年)の蘆溝橋事件をきっかけに全面的な日中戦争となりました。そして、昭和16年(1941年)12月8日、ハワイの真

珠湾攻撃により太平洋戦争に突入し、昭和20年(1945年)8月の終戦まで15年にわたる戦争が続きました。戦時下では防空演習などが行われました。

### 防空



千葉防空演習本部前の本部員 昭和7年(1932年)7月、市役所に本部が設置されました。前列左から神谷市長、岡田知事、竹内千葉衛戍司令官。



県庁北側の日本赤十字千葉支社で行われた防空演習 昭和7年(1932年)7月、市内各地で大規模な演習が行われました。(防空写真帳 昭和7年発行より)

### 市民のくらし



なぎなたの練習 武道が正課となり、高学年の女子は「なぎなた」の練習をするようになりました。(千城国民学校)



さつまいもの切り干しの供出作業 子どもたちは軍馬の餌にする、さつまいもの切り干しづくりを行っていました。(昭和18年[1943年]頃都町にて)



千葉駅改札に女性 戦争も激しくなってきた昭和18年(1943年)、女性の改札係が登場しました。

### 雑誌の表紙も時代を反映



婦人倶楽部附録  
昭和13年(1938年)  
9月1日号



子供の科学  
昭和14年(1939年)  
3月1日号



子供の科学  
昭和14年(1939年)  
6月1日号



写真週報  
昭和19年(1944年)  
6月7日号



写真週報  
昭和19年(1944年)  
9月6日号



写真週報  
昭和19年(1944年)  
9月27日号



旧千葉医大附属病院 昭和12年(1937年)4月の完成当時は、東洋一の規模を誇りましたが、戦局が激しくなると外壁に迷彩(カムフラージュ)をほどこしました。



現在の千葉大学医学部



「千葉市ゆかりの家・いなげ」敷地内に現存する防空壕(外観) 通常は、崖地に素掘りの「横穴式防空壕」でしたが、コンクリート製のものは、珍しいものでした。

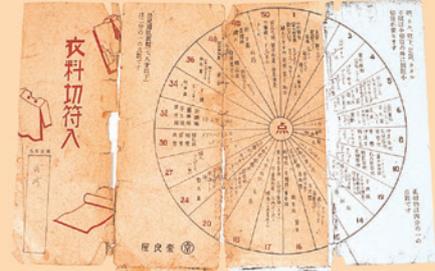


(内部)



火たたき棒を肩に校庭を行進する自警団(昭和18年[1943年]11月)  
〈写真提供:千葉経済学園〉

## 発行された衣料切符



〈中央区都町/露崎芳郎氏所蔵〉

# 市内の陸軍関係の学校・施設

明治41年(1908年)6月の交通兵旅団と鉄道聯隊第二大隊の椿森移転以来、本市には、陸軍歩兵学校、気球聯隊など多くの陸軍施設が中央区(椿森、弁天)や稲毛区(作草部、天台、穴

川、小仲台、園生)の台地に集積し、その総面積は約462ヘクタール(約140万坪)に及びました。現在跡地は、学校や公園、公共施設などに利用されています。



千葉市内の主な陸軍関係施設一覧表

No.	名称等	設置年月日	所在	主な業務・沿革等	跡地の主な現施設
①	千葉聯隊区司令部	昭和6年(1931年)1月18日	中央区 椿森5丁目	・千葉県下の徴兵、動員、召集、在郷軍人の指導等を行った。 ・明治21年(1888年)5月21日「佐倉大隊区司令部」設置、明治29年(1896年)3月10日「佐倉聯隊区司令部」と改称、昭和5年(1930年)3月25日司令部焼失。昭和5年(1930年)12月21日「千葉聯隊区司令部」と改称、昭和6年(1931年)1月椿森の交通兵旅団司令部跡に移転。	財務省関東財務局千葉財務事務所
②	千葉陸軍病院	明治41年(1908年)4月1日	中央区 椿森4丁目	・傷病兵の治療にあたった。明治41年(1908年)4月「千葉衛戍病院」創設、昭和11年(1936年)10月1日「千葉陸軍病院」と改称。	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
③	鉄道第一聯隊	明治41年(1908年)6月2日	中央区 椿森2丁目 4丁目	・戦地では鉄道の建設・修理及び兵員・物資を輸送した。 平時は千葉市とその周辺で訓練をした。 ・明治29年(1896年)11月18日「鉄道大隊」として東京・牛込の陸軍士官学校内に創設、明治30年(1897年)6月28日東京・中野に転営、明治40年(1907年)10月22日「鉄道聯隊」に昇格、同年11月23日津田沼に転営。明治41年(1908年)6月2日第二大隊のみ椿森に転営、同年11月2日鉄道聯隊本部及び第一大隊の全てが椿森に転営、大正7年(1918年)5月29日「鉄道第一聯隊」になった。「(鉄道第二聯隊)は津田沼」	椿森中学校、椿森公園
④	同 材料廠	明治41年(1908年)	稲毛区 轟町3丁目	・鉄道工兵の教育、鉄道器材の修理を行っていた。 ・明治41年(1908年)鉄道聯隊が椿森転営の際「聯隊材料廠」を建設。大正7年(1918年)5月29日鉄道第一聯隊、同第二聯隊(津田沼)への改組に伴い「鉄道材料廠」として聯隊より独立、大正12年(1923年)3月末日廃止。その施設の一部を利用し、「鉄道第一聯隊材料廠」を設置。	千葉経済大学(旧材料廠) 県立千葉東高校(同都賀倉庫跡)
⑤	同 作業場	明治41年(1908年)	中央区 弁天	・演習用の作業場	千葉公園(綿打池から競輪場付近)
⑥	千葉陸軍兵器補給廠	大正12年(1923年)4月1日	稲毛区 轟町3丁目 4丁目 5丁目	・兵器の補給、鉄道器材の保管を行っていた。 ・大正12年(1923年)3月末日「鉄道材料廠」が廃止し、同年4月1日その施設の大部分を利用し「千葉陸軍兵器支廠」が発足、昭和14年(1939年)「千葉陸軍兵器補給廠」と改組、昭和20年(1945年)4月18日「東京陸軍兵器補給廠」に併合、「東京陸軍兵器補給廠千葉分廠」となる。	轟町小、轟町中、市教育センター 市立第二養護学校 千葉経済大学短期大学部 千葉経済大学附属高校
⑦	陸軍歩兵学校	大正元年(1912年)12月24日	稲毛区 天台1丁目	・歩兵の戦闘法を研究し、これを全軍に普及させる目的で設立。	作草部公園、天台保育所、 千葉少年鑑別所
⑧	気球聯隊	昭和2年(1927年)10月	稲毛区 作草部1丁目	・大正2年(1913年)所沢に「気球隊」新設、昭和2年(1927年)10月作草部に転営、昭和11年(1936年)5月「気球聯隊」と改称。	県営作草部住宅、県計量検定所
⑨	千葉陸軍戦車学校	昭和11年(1936年)12月1日	稲毛区 穴川4丁目	・戦車隊に必要な基礎的学術・通信・整備の教育及び戦車に関する調査・研究を行った。 ・昭和11年(1936年)8月「陸軍戦車学校」習志野に発足、同年12月1日穴川に移転し開校式を挙行、昭和15年(1940年)「千葉陸軍戦車学校」と改称。	稲毛区役所、県立京葉工業高校 独立行政法人放射線医学総合研究所
⑩	千葉陸軍防空学校 (千葉陸軍高射学校)	昭和13年(1938年)8月1日	稲毛区 小仲台	・高射砲術の教育を行った。昭和13年(1938年)4月四街道の陸軍野戦砲兵学校内に「陸軍防空学校創立準備室」発足、同年8月に小仲台に移転、昭和17年(1942年)8月1日「千葉陸軍防空学校」と改称、昭和19年(1944年)4月に「千葉陸軍高射学校」と改称。	小中台小、稲毛図書館 仲よし公園、県立千葉女子高校 小中台中、市立千葉高校
⑪	下志津陸軍飛行学校	大正12年(1923年)5月17日	若葉区 若松町	・偵察機教育を行った。 ・大正10年(1921年)4月「陸軍航空学校下志津分校」を印旛郡千代田村に創立、大正12年(1923年)1月若松町に移転、大正13年(1924年)「下志津陸軍飛行学校」として創立。昭和19年(1944年)6月廃校し、「下志津教導飛行師団」となる。	自衛隊下志津駐屯地(高射学校)

注1 設置年月日とは、千葉市に創設または移転した時期です。

注2 上記のほかに、菅田陸軍飛行場、陸軍航空本部通信所などの施設がありました。

本表は防衛省防衛研究所戦史部の協力により作成したものです。

① 千葉聯隊区司令部跡



千葉財務事務所(中央区椿森)

② 千葉陸軍病院跡



(独)国立病院機構 千葉医療センター(中央区椿森)

③ 鉄道第一聯隊正門



(中央区椿森)

④ 旧鉄道第一聯隊材料廠



千葉経済学園内(稲毛区轟町)「轟町」の地名は、軍靴の音が賑やかであったところから名付けられました。(県指定有形文化財)

⑥ 陸軍兵器補給廠跡



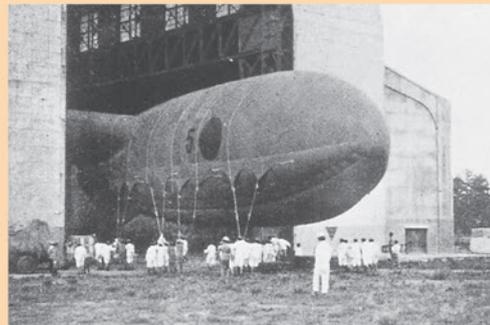
昭和40年(1965年)頃撮影(提供 千葉経済学園)  
(稲毛区轟町)

⑦ 陸軍歩兵学校正門



(稲毛区天台)

⑧ 気球聯隊



第一格納庫から出る繫留気球(稲毛区作草部)



旧第二格納庫(稲毛区作草部)  
※令和2年度に解体されました。  
部材の一部を保存し、モニュメントとして  
千葉公園に展示しています。

⑨ 千葉陸軍戦車学校



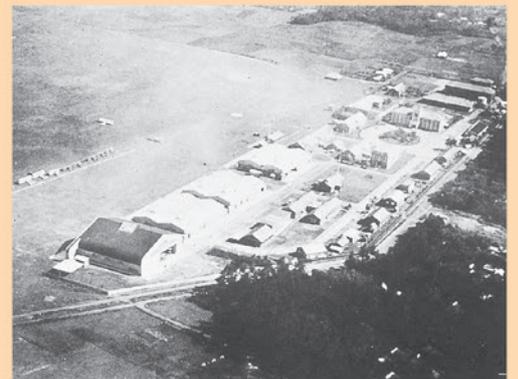
左側は中戦車A型ホイベット(イギリス製)、右側はルノーFT型(フランス製)(稲毛区穴川)

⑩ 千葉陸軍防空学校  
(千葉陸軍高射学校)



正門(稲毛区小仲台)

⑪ 下志津陸軍飛行学校



現在、自衛隊下志津駐屯地(高射学校)となっています。(若葉区若松町)